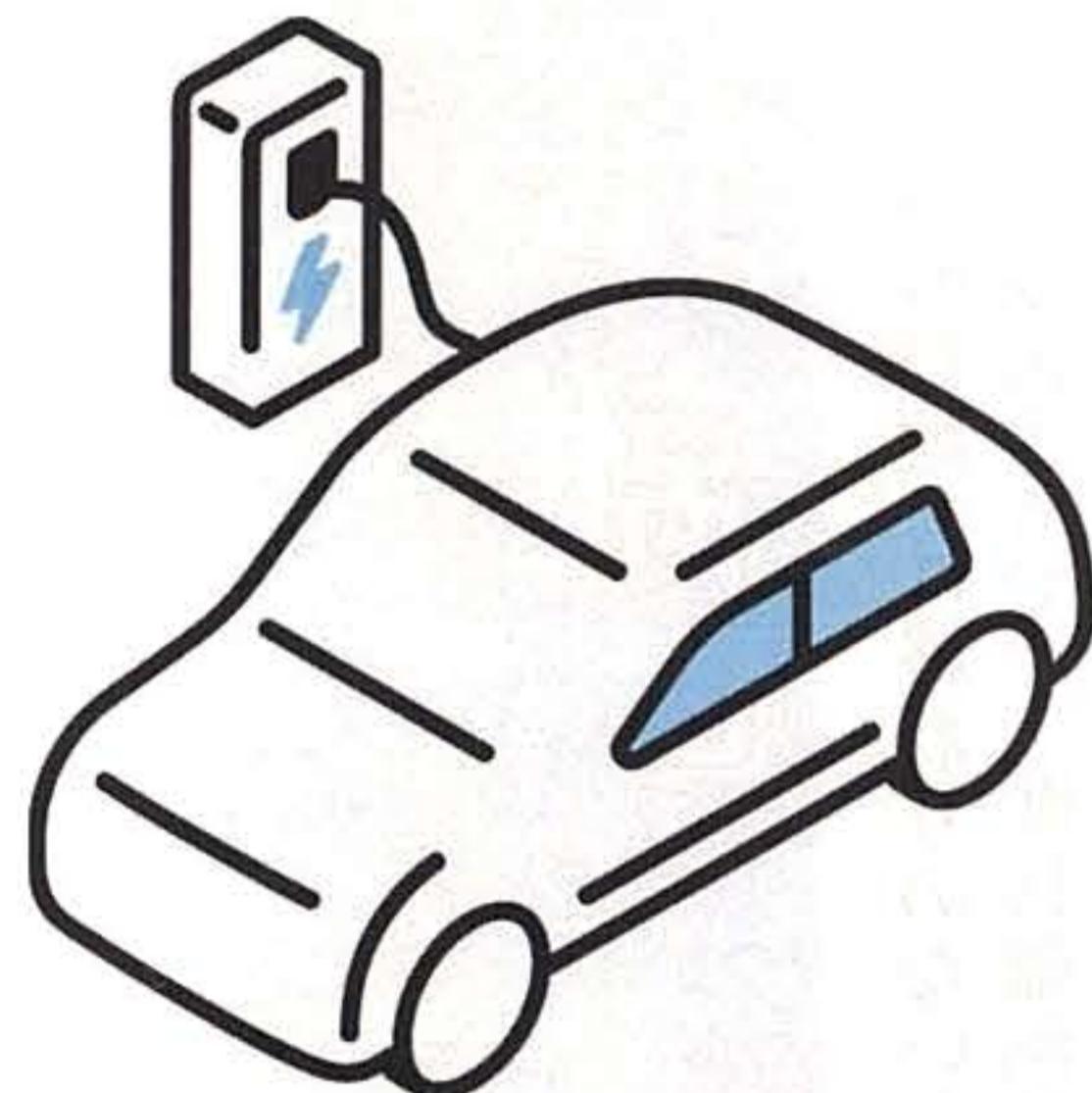


## LPAの会からのお役立ち情報

### 今、電気自動車が注目される訳



電気自動車のメリットは、走行中に二酸化炭素を排出しないこと、走行音や振動が少なくて加速もスムーズ、ランニングコストが数分の1、点検交換する部品が少なく、停電した時には蓄電池として活用出来て、補助金&減税が適用される事(2023年執筆時時点)、良い事ばかりですね。では、デメリットにはどのようなものがあるでしょう。車両価格が高いこと、充電に時間がかかること、航続距離が短いこと、充電ステーションが少ないと、ですね。今世界中で電気自動車に。と言う話になっています。2030年迄にはという話もありますが、日本ではあまりそんな感じはしません。自動車メーカーのカタログには沢山載っていますが、走行している車は見かけません。ハイブリッド車は見かけるものの、2021年度販売台数の0.5%が電気自動車なので、なかなか見当たりません。

電気自動車は、走行可能距離の半分を目安に充電して下さい。とりあえずが、走行するだけでなく、エアコンやワイパーの利用があるし、日本国内には充電ステーションがあまり無く、住んでいる所によつて事情が違うので普及率は違うでしょう。

中で二酸化炭素を排出しないこと、走行音や振動が少なくて加速もスムーズ、ランニングコストが数分の1、点検交換する部品が少なく、停電した時には蓄電池として活用出来て、補助金&減税が適用される事(2023年執筆時時点)、良い事ばかりですね。

では、デメリットにはどのようなものがあるでしょう。車両価格が高いこと、充電に時間がかかること、航続距離が短いこと、充電ステーションが少ないと、ですね。今世界中で電気自動車に。と言う話になっています。2030年迄にはという話もありますが、日本ではあまりそんな感じはしません。自動車メーカーのカタログには沢山載っていますが、走行している車は見かけません。ハイブリッド車は見かけるものの、2021年度販売台数の0.5%が電気自動車なので、なかなか見当たりません。

電気自動車は、走行可能距離の半分を目安に充電して下さい。とりあえずが、走行するだけでなく、エアコンやワイパーの利用があるし、日本国内には充電ステーションがあまり無く、住んでいる所によつて事情が違うので普及率は違うでしょう。

今現在、電気自動車普及に対しまして、充電ステーションが不足しています。家庭での充電、施設の普通充電、車の販売店等の設置の急速充電があります。急速充電では、一台当たり20~30分かかります。充電ステーションに行つた時、1台充電中ならば、その分待たなければなりません。そうすると充電渋滞が起きてしまいます。ガソリンスタンドでの給油なら、それほど時間は掛からないでしよう。また、火力発電が8割近くを占める日本では、電気自動車に乗り換えると、CO<sub>2</sub>削減には繋がらないのではないかという話もあります。でも、十数年後には違っているのでしょうか。

最新の住宅には、太陽光発電システムと家庭用充電ソケットを完備している場合があるそうです。昼は余る電力もあり、それで電気自動車を充電すれば良いのではないかという話を聞きました。家も車も蓄電池と考えた方が良いといふ事ですね。

未来は、空飛ぶ車があると思っていましたのは遠い昔、今はもうすぐ乗る事が出来る所まで来ています。充電ステーションの設置も不足していません。世界はどんどん電気自動車にシフトしています。日本もこれから期待していきましょう。



◆コープ商品には、どのようなものがあるの?

コープ商品に様々なロゴがついているのを見ると思いますが、コープ商品には下図

商品の基本的な商品にはブランドロゴがつけられています。

co-op

「コープクオリティ」 おいしさを求めて①原料や製造方法などおいしさの理由が明らか。②他の商品との違いが明確③

100人規模の組合員モニターの8割以上が

おいしいと評価、とい

う基準があり、これらを満たした商品がコープクオリティです。

「きらきらキッズ」 「赤ちゃんと一緒に食べさせて良いかわからない」「手軽に栄養を取らせたい」

世帯を応援する商品です。

「離乳食期以降向け」「幼児

食期向け」の商品で、子育て

ます。

宅配でご案内しております

「アボカド」は、組合員さん

へは3日前後で食べられるよ

うに、お届け日から逆算し

ます。

アボカドは、南国が主な産地もあり、樹上では柔かくならず、収穫後の追熟処理が必要な果物となります。

追熟処理とは、エチレンガスという野菜や果物が発する熟度を促進させるガスをかける処理になります。日本向けては、産地から日本に来るまでの船内冷蔵温度は「4.4°C」に保たれた状態で品温5.5°Cに維持された加工施設管理が徹底されています。

そして、日本では「14°C

24°C」に維持された加工施設内で追熟作業が行われています。

アボカドは、南国が主な産地もあり、樹上では柔かくならず、収穫後の追熟処理が必要な果物となります。

追熟処理とは、エチレンガスという野菜や果物が発する熟度を促進させるガスをかける処理になります。日本向けては、産地から日本に来るまでの船内冷蔵温度は「4.4°C」に保たれた状態で品温5.5°Cに維持された加工施設管理が徹底されています。

そして、日本では「14°C

</